

何をもとめてそこはかと

庭の芝生をさまよひぬらし

白く妙なる汝がはねの

しほれく〜て見えけるは

雨にそぼちし爲めのみならじ

馴れて契をこむらじささ

ともにすみれの花の香を

忘れかねてや春さへすぎて

卯の花くだし日數へて

ふりにし跡をこひしげに

訪ふも哀やものぐるほしく

汝はしらずや世の中は

うつろひやすき花ごころ

咲くも一時なさけもいろも

さたれ胡蝶よ諸ともに

うき世がたりの友として

小さき胸のうさはらさなん

一聲

つねを

杜鵑一聲

さみだれは

ぐまなくはれし

夕ばえの

あやなす雲に

日は落ちて

蜀山萬里

つきしろし

師を懐ふ

獨醒軒主人

散る花にいとわはればまざりけり

君と詠めし春を懐ひて